「試練の時に喜びに気づく」
（ペテロの手紙第一　1章3節～9節）

牧師：原　雅幸

序）寄留者生活にしのびよる危険

・価値あるダイヤモンドが箱の底に埋もれ見えなくなる時「宝の持ち腐れ」
・心を整理しておかないと、宝が些末なものに埋もれてしまう。寄留生活に悩み悲しみは必然。

1）埋もれた「喜び」を見つけ出すために

・6節と8節の言い切りの形「大いに喜んでいます」「喜び躍っています」への違和感。→「大いに喜びなさい」「喜び躍るでしょう」ではないのか。
・私たちは自分の感情を自分で把握することができない場合がある。
・ペテロは喜びの再発見へと私たちを導こうとしている。
・救いの喜びなしには、契約の民として歩むことはできない。

2）私たちの宝は「霊的身分証明書」

・3節後半は「神は、…私たちを新しく生まれさせ…ました」が主文。
＝「神の子どもに生まれ変わった」←中身が変わったという意味ではない！
→「神のあわれみの大きさゆえ」に決して失われない絆が与えられた。神との関係の変化であり、このために払われたのがイエスのいのちである。

3）神の子どもであるならば

・未来が変わる「生ける望みをもつ」＝死が「よみがえり」によって、乗り越えられ、私たちを蝕む罪、悪の力からの完全な解放が待っている。
・世相は暗くなるかもしれないが、私たちの未来は明るい。
・「生ける望み」＝手に入る望み＆霊的に意味のある望み＆今を生かす望み
⇔今の世界は「若さ」に価値が置かれているが、巻き込まれないように！
・分け前もある「資産を受け継ぐ」…よみがえって真の人間になった時、真の世界（罪の影響のない世界）を味わい楽しむことができる。そこではすべてが礼拝になる。
・苦しみの意味が変わる 受け継ぐ資産を受けるにふさわしい人格へ・誠実さへの訓練だとわかる。救いを見失うと「試練」は「神の怒り」に触れた結果だと理解されてしまうかもしれない。

結）たましいの救いは最高レベルの喜び

・「たましい（過去・現在・未来すべて）の救い」の喜びは、救われた時の喜びから始まり、増し加えられて賛美へと駆り立てられていく。

名前（＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。

① 神さまが私たちに与えてくださる「宝」とは何のことでしょう。

② 「たましいの救い」とは何でしょう。

・あなたの□□も、□□□□も
□□□も、その存在の□□□が、
神さまにゆるされ、受け入れられ、結び付けられること。
神の子どもとされることの、別の言い方。

◆お話を聞いた後で、考えましょう。

＊ あなたは、「神の子ども」として新しく生まれていますか。

＊ あなたの生活の中に賛美を取り入れることを、どう思いますか。

みんなで一週間考えてこよう！

～教会クイズ（教理問答）～

Q023　イエスさまが、「ひとり子」であるとは、どういうことですか。

A023　イエスさまは、□□□□とまったく同じ力と権威をもたれる□□□□のお方であるという意味です。

□□ヒント□□　マルコ 15：33-41、ルカ 1:35、ヨハネ 1:14-18、ピリピ 2:6-11、第一ヨハネ 4:9、5:18-20